

〔重修本草綱目啓蒙三十三〕鳴鳩〇中

ツ、ドリハ古名フ、ドリ和名一名ナハシロドリ播州ムギウラシ土州スミタドリ時田水清故也、ヨブコドリ古歌 大サ鶴ノ如背黒ク小白點アリ、鳴聲竹筒ヲタ、クガ如シ、

〔飼鳥必用下〕筒鳥

此鳥も五月頃江戸在にてよく鳴鳥也、此類虫喰とて、かつこうつ、どりとはいへ共みな虫喰故、人の賞翫せざるもの也、飼方は右同斷〇餌飼鈔にて玉子の黄み入七分餌也、生鱧の皮むきにしたるを細かく切、一日に二度ばかり是を飼べし、

〔夫木和歌抄都々鳥〕

寂蓮法師

これも又さすがにものぞあはれなるかた山かげのつ、どりのこゑ

〔精進魚類物語〕鳥の中には、〇中 侍大將には、〇中 つ、鳥、

菅鳥

〔萬葉集十二〕寄物陳思

白檀シラエヒビ、斐太ホツエ乃細江之、菅鳥スガトリ乃妹爾イモニ戀哉、寢宿イナネ金鶴カネツル、

〔萬葉集略解十二〕菅鳥といふも、まられず、〇中 菅は管の誤歟、集中つ、鳥とよめる有と、翁賀茂真淵〇はいはれき、猶考ふべし、

〔夫木和歌抄水鳥〕仁安二年歌林苑歌合水鳥

祐盛法師

いづかたもおなじうきねをなにとかはうらわたりするさよのすがとり

〔新撰字鏡〕獵子鳥 又云 臘阿止皆鳥利

〔倭名類聚抄羽族名〕獵子鳥 辨色立成云、臘阿止皆鳥胡雀、一楊氏漢語抄云、獵子鳥和名上同、今按兩

朝國史用、獵子鳥、又或說云、此鳥群飛、如列卒之滿山林、故名、獵子鳥也、

〔箋注倭名類聚抄鳥名〕按日本書紀、欽明天皇皇子有臘雌鳥皇子、古事記作足取王、則阿止利之名、

自古有之、非俗語也、〇中 按臘皆鳥、皆色黃白如蠟、故名臘皆、其獵子、臘皆、薦子、皆是假借耳、如列卒

獵子鳥